

## 平成30年度自己評価結果

種 別 児童自立支援施設  
施設長 名 玄間 正彦  
実施日 平成30年8月1日～8月31日  
自己評価分析実施日 平成30年11月26日  
自己評価分析会議参加者 園長、副園長、課長、むつみ寮L、ますみ寮L

自己評価結果（詳細は別紙参照）

### 1 良かった点

- 昨年度第三者評価で指摘された性教育プログラムについては今年度から検討を開始した。
- 第三者評価実施も昨年度2回目を実施し、概ね良い判定を受けた。今後も自己評価を継続的に実施していくことが必要。

### 2 課題

- 児童自立支援施設特有の地域との交流（ニーズの把握）や開かれた施設という意味で評価が低くなってしまっている。しかし、施設の機能からするとどうしても閉鎖的な面があり解消は難しい。
- 12月から職員の産休・育休で欠員が生じる。募集をしているが職員採用は厳しい。そのための一つの考えとして資格要件の緩和が必要であるが、県の条例に明文化されているので難しい。
- 児童心理治療施設と児童自立支援施設の棲み分けが明確になっていない。平成32年度からは本県でも初めての児童心理治療施設が設置されるので今後、県として明確にしていく必要がある。その際に施設として自立支援するという役割を理念として持っていることが必要。
- 学校との連携については現在も密にしているが、今後も連携を密にとって児童の支援に支障が生じないようにしていく必要がある。

### 3 まとめ

第三者評価については3年に1回であるが実施しない期間は自己点検の意味でも自己評価を実施していくことが大切である。そうすることで次年度への課題や目標が明確になっていくと考えられる。